

G-COE SEMINAR 2009 ¹³

2009年1月13日(火)

18:30-
東校舎講堂

John R. Stanley, M.D.

Milton B. Hartzell Professor and Chairman,
Department of Dermatology University of Pennsylvania School of Medicine



Pathways to discovery: personal and scientific lessons from my studies of pemphigus

John R. Stanley先生は自己免疫性水疱症である尋常性天疱瘡および落葉状天疱瘡の病因・病態の解明、治療法の開発の研究を30年以上にわたり精力的に続けられてきました。その業績は、天疱瘡抗原の免疫沈降法による同定、cDNAクローニング(Cell 1991)、ノックアウトマウスの作成、デスマグレイン代償説の提唱(New Engl. J. Med, 2000)など、天疱瘡の病態解明に大きな足跡を残されてきました。最近では、患者リンパ球より一本鎖抗体を作成し、皮膚へのドラッグデリバリーなど、全く新しい切り口から精力的に研究を展開されています。またStanely先生は、慶應義塾大学皮膚科からの留学生の指導、またレジデント交換プログラムの立ち上げなど慶應義塾大学医学部皮膚科と大変ゆかりの深い先生でもあります。今回は特別に、水疱症研究のトップランナーとして今なお走り続けている先生にお願いし、先生ご自身の今までの天疱瘡研究を振り返りつつ、それを通して培ったものの考え方、困難への対処法、発見の喜びなど研究の醍醐味を大いに語っていただくことになっています。たくさんの方のご来場をお待ちしています。

コーディネーター: 天谷雅行(皮膚科学 教授)
主催: グローバルCOEプログラム「幹細胞医学のための教育研究拠点」
お問い合わせ: 皮膚科学教室 大工学(内線62413)
グローバルCOE事務局(内線64037)

参加自由

(幹細胞G-COE RA受講指定セミナー)